

漁業資源・漁場調査と情報提供

安江尚孝・高橋芳明・山根弘士・陶山公彦・小川満也・木下浩樹

目的

和歌山県周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存及び合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

なお、本事業は水産資源調査・評価推進委託事業による。

方法

2021年4月から2022年3月に主な標本市場（図1）で、漁獲データ収集等の資源評価調査（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、マアジ、マダイ、ヒラメ、トラフグ、サワラ、スルメイカ、サンマ、ブリ）及び資源動向調査（ムロアジ類、タチウオ、イサキ、ハモ、マルソウダ、クマエビ）を行うとともに、漁業調査船「きのくに」を用いて、海洋観測（卵稚仔調査を含む）を月1回、沿岸定線24定点及び浅海定線18定点において実施した（図1）。

結果及び考察

上記魚種について、標本市場での漁獲データを蓄積した。主たる魚種の漁獲動向を図2に示す。瀬戸内海標本2市場（西脇、栖原）の船びき網によるシラスの漁獲量は、1月と4月に特に多く、多くの月で平年を上回り、年を通して継続した漁獲があった。瀬戸内海及び紀伊水道外域標本3市場（比井崎、御坊市、田辺）のまき網によるサバ類漁獲量は、3月と10月にピークがあり、3~5月、9、10月に平年を上回ったが、年間漁獲量は平年を下回った。マアジ漁獲量は、7月と11月は平年を上回ったが、他の月では平年を下回った。マルアジ漁獲量は、2~3月と産卵期の5~7月に比較的多かったが、多くの月では平年を下回った。瀬戸内海標本1市場（加太）の一本釣りによるマダイの漁獲量は、2月に最も多かったが、すべての月で平年を下回った。紀伊水道外域標本1市場（南部町）の棒受網によるウルメイワシ漁獲量は、盛漁期の7月を含めてすべての月で平年を下回った。また、海洋観測の結果を整理した海洋観測表を添付した。

海洋観測の結果については、国立研究開発法人水産研究・教育機構、各都道府県水産試験場及び一般社団法人漁業情報サービスセンターで構成されるネットワークシステム（FRESCO）を用いてオンラインデータベース化を行った。資源評価調査の対象魚種については、「資源評価」が国立研究開発法人水産研究・教育機構により策定、公表された。資源動向調査の対象魚種については、資源動向をとりまとめ、国立研究開発法人水産研究・教育機構及び関係府県に報告した。和歌山県に関する情報については、「漁海況情報」や「紀伊水道春シラス漁場調査速報」などを通じて関係漁業者・団体に提供した。「第52回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議」、「令和3年度太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海

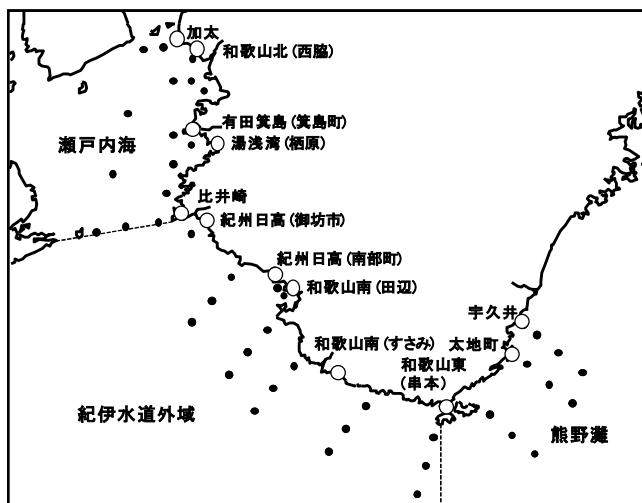


図1 主な標本市場（○）と海洋観測定点（●）

況予報会議」、及び「令和3年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会」などにおいて、本事業の調査結果を報告した。

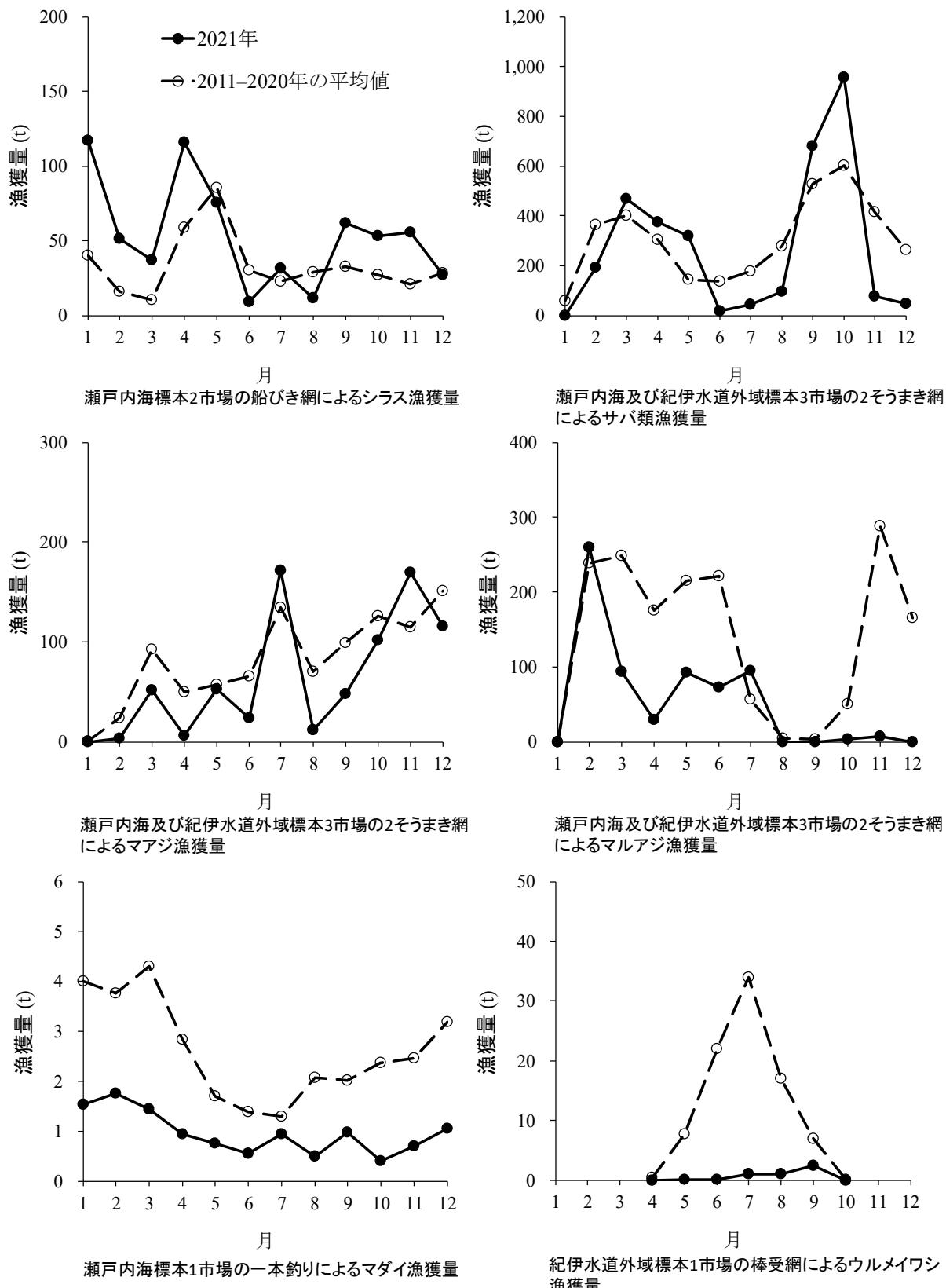


図2 主要魚種の月別漁獲量